

●平成26年度／小松高校上級学校合格者数

学校名	現		浪		学校名	現		浪		
	現	浪	現	浪		現	浪	現	浪	
北海道大	13	2	国立大学	1	名古屋大	1	1	国立大学の合計	192	24
東北大	3	1		3	奈良女子大	3			3	
東京大	5			1	広島大	1			1	
東京工業大	1				大阪府立大					1
一橋大	1				その他				30	8
名古屋大	8									
京都大	3	2			青山学院大	5	2			
大阪大	8	1			慶應大	3				
神戸大	9				上智大	2	1			
九州大	1				中央大	6				
国立大学医学部	1			東京理大	3	1				
10大学+医学部の合計	53	6		法政大	7	1				
国立大学	筑波大	3	私立大学	11	5	2				
	東京外国語大	1		1	4	2				
	横浜国立大	2			6					
	上越教育大	1			19	5				
	新潟大	8		2	62	16				
	富山大	18			24	8				
	金沢大	49		4	5					
	福井大	16		1	222	36				
	信州大	6		1						
	静岡大	1			379	77				

●普通科7クラスと理数科1クラスの現役生及び浪人生の合格実績。なお、10大学の合格者は、22年度から73→66→73→62→58名、東大は、5→3→2→8→5名という推移だった。

「可能性があるから志を高く持とう、という単純な言葉は、実はかなり重い。指導の通りにやっただけの結果が出ないとなつては簡単に許されるはずがないからだ。では、確実な結果に結び付け指導ができるのか。英語を担当する片岡清志先生は言う。「我々は、生徒の可能性の判断を極めて慎重に行っています。特に重視しているのは生徒の答案です。何をどう答えているか、どこをどう間違えているかを採点・添削しながら注意深く見定

**生徒の実力と可能性を答案の添削で判断**

この授業について、物理を担当する村上真一先生は、「東大ではこんな出題をする、この問題なら場合によっては白紙でも大丈夫、といった話は生徒には新鮮で、自信をつけたり、意欲的になったりするようです。目の輝きが違ってくるのがわかりますね」と話す。

この緊張の緩和までさまざまな場面でのよい効果を生むのです」（土山先生）



●進路指導主事 数学科 土山樹一郎先生

め、例えば模試などの得点や偏差値では見えないその生徒個々の到達度、理解度、処理能力などをチェックしているのです。ですから、1年生の定期試験問題から東大クラブの演習問題まで、すべてのテストに到達度や理解度を測るための問題を仕組んでいます。生徒のパーソナリティから成長の度合いまで細かく把握、これから発揮されるだろう潜在的な学力まで医師のカルテのように診断して進路指導を行っているのです」

小松高校のカリキュラムは、正規の授業の密度も濃いですが、補習授業もかなりのウェイトがあるという。東大クラブのように個々の志望や学力段階を踏まえ、それに合わせた授業・トレーニングをするには、正規授業の合間に開かれる補習授業が欠かせ

●進路指導部訪問

地方公立大志望から難関国立大へ進ませる 進路指導改革プランの中身と課題

——石川県立小松高等学校の進路指導

県内トップクラスの高校でも、浪人を嫌い難関大より地元国立大や都会の有名私立大へ進む「堅実な選択」をする人は少なくない。しかし、それが本当にベストな選択だろうか。そう考えて進路指導改革に乗り出したのが石川県立小松高等学校の土山樹一郎先生だ。その改革の中身と現状を聞いた。

最初の進路選択は「総合大学、WASENJI」

石川県小松市にある県立小松高等学校は、百余年の伝統を持つ県内トップクラスの進学校だ。石川県高校総体・総文や甲子園、春高バレーでも名を連ねるなど部活動も盛んなほか、スパー・サイエンス・ハイスクールにも指定され、文武両道・先鋭的な教育内容として地元にも広く知られている。

「そんな学校ですから、それなりに学力が高い、潜在能力を持つ生徒たちが集まっています。しかし、入学した当初の彼らに進路先の希望を尋ねると、私から見れば控えめな進学先を答える生徒が多かったです。保護者の方も安全志向が強く、浪人を避け私立大の併願を考えると、現状でした。しかし、努力次第では難関国立大に手が届く力がある。その可能性を生かさないのもいいのかという思いがありました」と進路指導主任の土山樹一郎先生は話す。

に赴任した直後から指導体制の改革を図ることにしたという。「たとえ浪人しても、それを補って余りある未来が見えてくる。生徒もそこに気づけば、どんな変わっていくこともわかっていく。だから今一度考えてみませんか、という強い思いがあったのです」

小松高校では、土山先生が赴任する前から、10人に満たなかった東大と京大の合格者を15人に増やすことを目標に「小松メソッド」と名付けた計画を推進していた。全教職員意識として放任的な学習・進路指導からの脱皮を図ろうという流れがあったのだ。

**東大志望者が集まる場「東大クラブ」**

そうした説明をする中で、東大受験の勉強を効率的にやりたいたいという意欲を持つ生徒が出てくる。その生徒たちの嘆願を受けて、校内に「東大クラブ」なるものがつくられることになる。これは、いわば東大を目指す3



●理科  
村上真一先生



●英語科  
片岡清志先生



●国語科  
田丸昌広先生

結び付いているようです」  
クラスや学年がより多く上を  
向くことで、全体の雰囲気活  
気づく。それが生徒の学力アツ  
してきます。ただそれだけなの  
ですが、生徒にしてみれば新し  
い選択肢・目標に出会うこと  
なるため、意欲を高めることに  
結び付いているようです」

●理科  
村上真一先生  
もう一つの課題は、教科間の  
連携です。我々がやるべきこと  
は、各教科それぞれに最高レベ  
ルで理解させることであること

●英語科  
片岡清志先生  
それが伝わってしまうのか、生  
徒の集中力も薄まっているよう  
にも見えます。これは常に戒め  
るべきことでしょう。

●国語科  
田丸昌広先生  
「一つは、我々の方法が形骸  
化する事です。ある年、ある  
方法を成功したとすると、それ  
を翌年も同じようにやってみま  
う。しかし、実際は生徒それぞ  
れの個性も置かれている状況も  
違うので、常に『今』の状況に  
合わせるアレンジが必要で  
そして何より、前回の安易な踏  
襲は、教師の側の緊張感が薄れ  
それが伝わってしまうのか、生  
徒の集中力も薄まっているよう  
にも見えます。これは常に戒め  
るべきことでしょう。

●国語科  
田丸昌広先生  
生徒個々に向け丁寧に行われ  
る指導、それに助けられて自発  
的に奮闘している生徒という状  
態は、今のところ成功している  
ように見えるが、課題として挙  
げるべき点はないのだろうか。  
それには片岡先生が答える。  
「一つは、我々の方法が形骸  
化する事です。ある年、ある  
方法を成功したとすると、それ  
を翌年も同じようにやってみま  
う。しかし、実際は生徒それぞ  
れの個性も置かれている状況も  
違うので、常に『今』の状況に  
合わせるアレンジが必要で  
そして何より、前回の安易な踏  
襲は、教師の側の緊張感が薄れ  
それが伝わってしまうのか、生  
徒の集中力も薄まっているよう  
にも見えます。これは常に戒め  
るべきことでしょう。

●理科  
村上真一先生  
は間違いないわけだ。  
学校では、この補習授業、定  
期試験なども含む各種のテスト  
問題のきめ細かい採点と添削、  
さらに受験業者が実施する各種  
の模試、それらすべてに各教科  
の先生がチェックを入れ、担任  
の先生が総合的に把握して、個  
々の進路指導をする。だからこ  
そ、一定の自信を持ってアドバ  
イスができるというわけだ。

●英語科  
片岡清志先生  
「生徒は積極的に先生を訪ね  
てくるので、休み時間や放課後  
の進路指導室は活気に満ちあふ  
れています。また、こちらから  
生徒と個別に連絡したいと思っ  
たときは、あの生徒なら今、こ  
こにいるはずだと居場所がわか  
る、というように、生徒とのコ  
ミュニケーションはかなり良好  
です。面と向かって話をすると、  
保護者にもしゃべっていない本  
音が出てきたりするので、それ  
を踏まえて急きよ進路指導の方  
針が変わったといったことも、  
わが校では多いようです」

●国語科  
田丸昌広先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●国語科  
田丸昌広先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●理科  
村上真一先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●英語科  
片岡清志先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●国語科  
田丸昌広先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●国語科  
田丸昌広先生  
「生徒が成功すれば共に喜び  
合う。仮に失敗したなら、教員  
はその責任を深く感じ、その後  
も生徒の将来に向けて真剣な指  
導を続ける。失敗した生徒から  
も、図らずも多くの感謝の言葉  
もらうのですが、そうした生徒  
との一体感、共通理解があるこ  
うなこと。これを、いわば『チー  
ム小松』のやり方として大切に  
していきたいと考えています」

●小松高校の年間スケジュール「進路実現を目指して」

踏ん張り・やりくりの12か月（2年生6月～3年生5月） ※1年生、3年生のスケジュールは省略

	2年生/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3年生/4月	5月
主な行事	総体・総文/北信越大会/修学旅行/進路講演会	終業式/夏季休業/特別学習会	大学見学会/インターシップ/オンパス/韓国科学交流/夏期補講/特別学習会	新人大会(前期)/関東ヒューマン/第2回進路志望調査	進路講演会/進路検討会	新人大会(後期)	海外交流研修/韓国科学交流/終業式/冬季休業/スパーゼミ	始業式/センター試験/3年0学期結団式	進路講演会/進路志望調査/「第一志望届」/「(大前期試験)」	卒業式/1/2年合同進路講話/春休業/スパーゼミ/「(大後期試験)」	始業式/入式/進路志望調査	進路検討会①
重点テーマ	文武両道再確認! 苦手科目を把握し、克服しよう	「何を学びたいのか?」 学部・学科を考えよう	入試に向けて、意識を高めよう	高校生活の折り返し地点=受験勉強をスタートさせよう	3年「0学期」! 進路目標に向けて、自律的な学習をしよう	いよいよ受験生! 部活動との両立を!						
日々の学習と進路ポイント	国・数・英の基礎固め ・苦手科目には毎日触れる ・英語は毎日聞く ・シス単こぶ単は毎日10分 ☆平日3h 休日5h	各種試験再見直し→弱点補強 ・弱点補強オリジナル課題を自分に課す ・文系の地歴、理系の理科において、1科目は得意に ☆平日5h以上	国・数・英+a開始 ・入試を意識し、ハイレベルな問題にも取り組む 理・地歴本格的に開始 ・授業→復習を徹底して基礎を叩き込む ☆平日3h、休日5h	志望校の問題を解く ・過去問1年分を解く ↓ ・自分に必要な学習を知る ↓ ・3年0学期からの学習計画を立てる ☆平日3~4h 休日5~6h	この時期の学習姿勢が3年夏以降からの飛躍に大きくかわる。既習内容(=センター試験範囲)の総復習 ・完全に弱点をなくしてしまおう ・習得・定着型から探求型重視への移行 難関志望者=ハイレベル模試を通じて応用力への対応確認 金沢大学レベル志望者=初のマーク模試で5教科の逆転を分析 ☆平日3~4h 休日5~6h	メリハリある学習サイクル ★予習必須(入試問題演習が増大)→授業→復習 ・最後の総体までのやりくりが大切 ・継続する「人間力」を鍛える ☆平日3~4h 休日5~6h						
定期試験		期末考査		中間考査		期末考査		学年末考査		中間考査		
模試	第1回校内模試(国数英)	進研模試(国数英)	学研ハイレベル模試(国数英)	第2回校内学力テスト(5教科)	進研模試(5教科)		第3回校内学力テスト(5教科) 数高2東大レベル模試(国数英) 進研センター早期対策マーク模試	第2回校内模試(5教科) 数高2東大レベル模試(国数英) 進研センター早期対策マーク模試		第1回校内模試 進研模試4月模試	学研記述模試	
模試の意義	大事なテスト! 長期計画作成の材料にする	全国での自分の今のレベルを知る	1年半後、ライバルとなる相手の実力、その中における自分の力を知る	夏休みに弱点を補強できたかどうかを確認する	初めての5教科全国模試! 全国内での自分の総力を知る		3年0学期に向けて真面目に課題に取り組みたいかを確認 全校内での自分の総力を知る	これまでの記述力を確認 入試レベルを体験。センター試験を知る		現在の真の実力を客観的に把握「5教科記述力」到達度確認	全国内での記述レベルを知る	

●学習計画のほか、学校行事や部活との両立まで設定されている小松高校の3年間の進路スケジュールモデル。各月に実施される模試の意義やさまざまな制約を考慮した上で、本学習計画、受験教科全体をまんべんなく見渡して計画が練られている点に小松高校ならではの配慮がうかがえる。